



# 安心して生まれ、育ち、暮らせるふるさと生駒をつくろう



## 3月議会報告

3月24日に3月定例会(3月議会)が閉会しました。市長提案の全議案が可決しました。今回の定例会で賛否の分かれた案件は令和5年度の一般会計予算(議案第1号)と県域水道一体化を進めるために必要な奈良県広域水道企業団設立準備協議会設置の是非を問う議案(議案第20号)でした。

議案一覧



予算審査においては、全ての事業について予算を認めるか否かを判断をしなければなりません。しかし、予算案提示後の限られた時間内に全てをチェックすることは容易ではありません。私は委員を務める厚生消防委員会所管事業を中心に、事前に必要な資料の提供を受け、審査に臨みました。

議決結果



## 令和5年度予算

一般会計は当初予算414億5千万円に加え、コロナワクチン追加接種費用として約3億6千万円が追加提案されました。

● 予算委員会**厚生消防分科会**では福祉健康部と消防本部の事業を審査しました。新規に提案された事業を紹介します。

### ① 計画策定業務 (単位 千円)

- ・健康いこま21計画・食育推進計画、自殺対策計画 1,827 (自殺対策計画はR5年度、他の2つはR6年度に策定。総事業費 9,307)
- ・第3期データヘルス計画 6,981 (うち、1,756 はデータ 購入費)
- ・高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画 7,188
- ・第7期障がい者福祉計画・第3期障害児福祉計画 4,889

データヘルス計画を除き、計画案策定後、パブリックコメントが行われます。みなさん、ご意見をお寄せください。

### ② 地域共生社会推進全国サミット(R6年開催)のイベント等の実施 12,531千円 (R5~6 総事業費 49,792千円)

人口減少を乗り越える持続可能なまちをつくるため、世代や分野をこえて市民・事業者が集い、地域共生社会について先進自治体・住民の取り組み等から、今できる事を考えます。2日間に約1,000人の参加を想定。R5年度はプレセミナーを開催します。

### ③ 補助や事業の拡大、負担の軽減

- ・妊婦健診補助金額の上限引き上げ等 81,009千円
- ・一般不妊治療助成金の対象者拡大 7,360千円
- ・産後ケア事業 利用者負担金の減額 6,725千円
- ・特定健診及び後期高齢者の健康診査の自己負担金無料化 10,258千円



### ④ 新型コロナウイルス感染症(コロナ)関連

- ・コロナワクチン接種事業 371,067千円 (当初予算+補正予算)

R2年度から今回の補正予算含め、総額約21億6千万円

### ⑤ 救急医療関連

- ・奈良市・生駒市消防指令センター消防指令システム更新整備事業 実施設計委託 3,578 千円 (R5~7 総事業費 496,348)

H28年から奈良市と共同で消防指令センターを運営、救急車や消防車両の相互利用を行っています。システム保守契約期間終了に伴い更新整備事業を計画。R5年度は実施設計委託料を計上。このほか、毎年、2千万円代の保守委託料等を支出 (R5: 25,771)。

- ・休日夜間応急診療事業委託料 R5年度は 162,800千円

●**その他**、特別会計・企業会計予算を含め、私は賛成しました。しかし、子育て支援に係る5事業について、市はその財源にこども未来基金の活用を提案しましたが、一部の議員から基金活用は地方財政法上問題である、前年度繰越金を充てるべきとして、修正案が提出されました。市は新版地方財政法逐条解説(石原信雄・二橋正弘 ぎょうせい)に基づき、基金の活用は問題なしと主張。法的見解が分かれたため、私は逐条解説を確認して市の主張に賛同。修正案に反対し、市提案の一般会計予算案に賛成しました。

## 県広域水道企業団設立準備協議会の設置について

生駒市の水道事業は一般会計からの赤字補填なしの健全経営ですが、自己水源(井戸水)は34%、残りの66%は県営水道から購入しており、自己水源だけではとても賄えないのが実状です。その上、給水人口の減少に伴う減収、老朽化した管路などの施設の更新、水道事業に必要な知識や技術の継承等が課題となっています。全国的にも同じ課題があるため、国は一体化(広域化)した場合には配水管等の更新のための事業費等に交付金を手当て(令和16年度まで)するなどして一体化を後押ししています。

一体化は広域水道企業団を設立して進められますが、そのためには参加自治体等がまず企業団設立準備協議会(協議会)を設置して協議する必要があります。地方自治法上、協議会の設置には参加自治体の議会の議決が必要ですので、今回、生駒市議会でもその是非が諮られました。

この1年、市民の皆さんからご意見が届き、関心の高さを痛感しました。おいしい水であることも大切ですが、何よりも将来にわたって平時にも災害時にも安定して安全な上水を提供できることが重要、上水は生きていくために欠かせない「命の水」であるという視点から、私は協議会設置の是非を考えました。

都市建設委員会資料

- ・県域水道一体化は将来にわたって安心で安全な水道水を持続的に供給することを目的としていること
- ・水道施設の集約化による投資額の抑制や国・県の財政支援により、水道料金の上昇が抑制されること
- ・老朽化した水道施設の更新ペースが加速すること
- ・企業団基本計画(最終案)には、民営化は行わないとの記載があり(p2)、企業団の組織(p4)、市町村からの引継ぎ資産の扱い(p10)等が明記。いずれも受け入れられる内容であることから、私は協議会の設置に賛成しました。



基本計画案

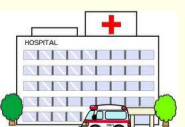


## 生駒市病院事業会計予算

生駒市立病院は市が病院事業債を使って施設を整備し、指定管理者である徳洲会が独立採算制で病院を運営しています。病院事業債の返済には、国からの交付金(病床数や医療提供に対し交付)や指定管理者負担金(病院建物・機器等の減価償却費相当分)と一般会計からの長期借入金を充てていますが、事業債の返済は当初の計画通り進んでいることを確認しました。

## 令和5年度病院事業計画

市立病院から提出された計画案は3月17日に管理運営協議会(会員は公募市民3、自治会代表3、医師会等医療従事者2、市長:会長、院長:副会長、計10人)に示され、会での質問や意見をふまえた計画は3月24日に厚生消防委員会に報告されました。令和5年度は新たにリウマチ科を設置、慢性関節リウマチの常勤専門医による診療が始まります。産科と小児科の連携による母子医療体制の充実や救急受入れ率の向上など、医療機能の充実が計画されています。



いのちより  
大切な  
ものは  
ない

# 伊木まり子の思い

生駒市唯一の公的医療機関、生駒総合病院で長年皮膚科の診療を担当、院内感染対策委員会委員長、医局長を勤めました。生駒総合病院閉院により不足した医療を充実させ、生駒市を安全安心なまちにしたいと、**新病院開設を公約に市議会議員に立候補して丸16年**。初当選から8年目の**平成27年に生駒市立病院開院**にこぎ着けました。ようやく病院も軌道に乗り始めた令和2年、思いもよらぬ新型コロナウイルス感染症の襲来。院内感染対策委員会を担当していた私はコロナ下の県や市、市立病院、市内の医療機関、介護事業所などの大変さと、コロナ対応における課題をだれよりも痛感。コロナ禍で明らかとなった医療や介護の課題を放ってはおけません。生駒市が**安心して生まれ、育ち、暮らしていけるまちであるために**、どうすべきか？ 4期目最後の議会を終え、以下のように考えました。

コロナ禍を教訓に  
市立病院を活かした  
感染症にも強いまちをつくりたい

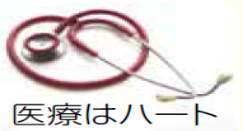
## 伊木まり子のめざすまちは・・・

### コロナ禍を教訓に 市立病院を活かした 感染症にも強いまち！

#### その1 元生駒総合病院医師として

##### コロナ禍を教訓に **安全安心の地域医療** をめざします

- 市立病院を中心に **新たな感染症に備えた健康危機管理体制**を
- 感染症流行にも対応できる **災害時医療体制のバージョンアップ**を
- 平時から医療と介護を支える **情報ネットワークによる効率的な連携**を
- 生駒市医療介護連携ネットワーク協議会を活かし、**誰ひとり取り残さない仕組みづくり**を
- 高齢者に寄り添うあたたかい医療と介護の充実したまちを



医療はハート

#### その2 臨床医として母として祖母として

##### **こどもの命と人権を守り、多様性を尊重するまち**をめざします

- こどもの病気、不調を早期に発見、対応できる**保健・医療体制**を
- すべてのこどもに**健やかな成育環境**を
- 保健・医療・教育・福祉の**情報を一元化し、その子のために有効活用**を
- こども・子育てのあらゆる問題を扱う**ワンストップ相談窓口**を
- こどもが躊躇（ちゅうちょ）せず**声をあげられる仕組みづくり**を

#### その3 4期16年在職の生駒市議会議員として

##### **生駒に暮らす一人一人につながる市政・議会**をめざします

- オンラインを活用し、市や議会について**気楽に話せる対話の会**を開催します
- 議員定数削減提案者として、**削減による弊害のない議会運営**をめざします
- 党派・会派の枠を超え、**熟議と互譲による市民のための議会**をめざします

ブログもご覧ください。

編集後記：コロナも5月8日から感染症法上の5類に移行し、インフルエンザと同じ扱いになりますが、気を許してよいのだろうかと懸念しています。3月7日に奈良医大の笠原感染症センター長主催のセミナー「医療・社会福祉施設における感染症対策と地域医療連携のこれから ～コロナ禍を超えて～」を視聴しました。笠原医師、厚労省でコロナ対策や地域医療構想、沖縄県で在宅医療・介護連携に取り組まれてきた沖縄県立中部病院の高山医師、奈良県の地域医療構想に取り組まれている天理よろづ相談所病院の次橋医師による、とてもわかりやすいトークでした。落ち着いたらもう一度、ゆっくり聞いてみたいと思っています。伊木まり子



医療はハート